

2012年6月28日  
日本医療政策機構  
定例朝食会

# 国際保健NGOのアドボカシー ～ジョイセフの事例～

石井 澄江



途上国の妊産婦と女性を守る

# ジョイセフとは

**(公財)ジョイセフ(会長:明石康)は、途上国の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOです。戦後の日本が実践してきた家族計画・母子保健の分野での経験やノウハウを途上国に移転してほしいという国際的な要望を受け、1968年に設立されました。**

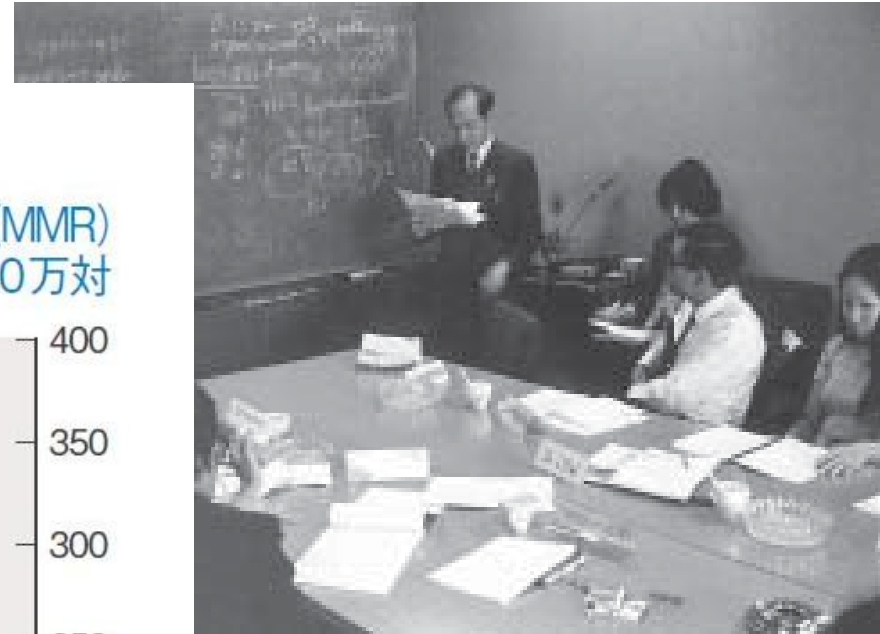
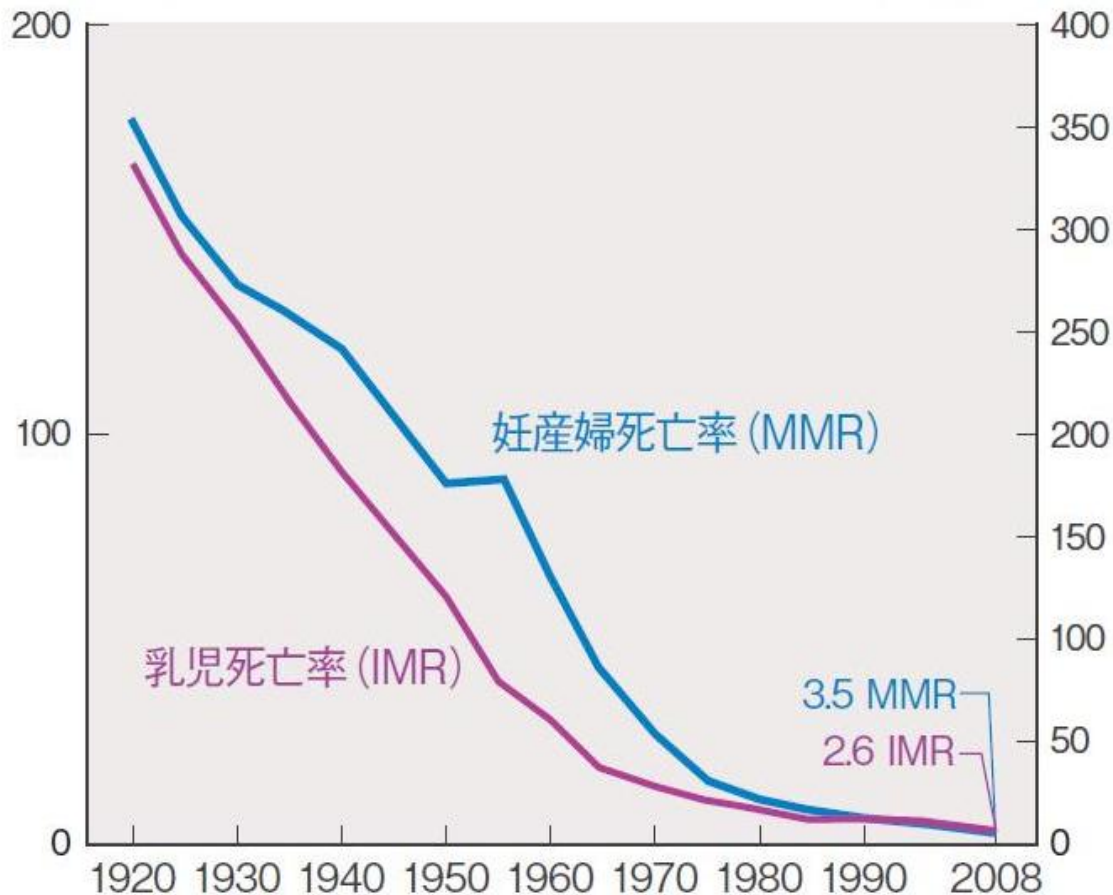


# 母子保健大国、日本の経験

乳児死亡率／妊産婦死亡率(日本)2008年

乳児死亡率 (IMR)  
出生千対

妊産婦死亡率 (MMR)  
出生10万対



# ジョイセフ紹介

- 人口と家族計画・母子保健・HIV感染予防を含む  
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ分野の国際協力を  
推進するNGO
- 設立： 1968年
- 資格： 内閣府認定公益財団法人  
UN ECOSOCの諮問NGO
- 特徴： 日本生まれの国際協力NGO、フィール  
ド・オペレーションとアドボカシー実施、国内に姉  
妹団体(自立したNPOs)を持つ

# ジョイセフ活動の3つの柱

## 人材養成



## フィールドプロジェクト



## アドボカシー

# ミレニアム開発目標と ジョイセフの目指すもの

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 普遍的初等教育の達成
3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
4. 幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. HIV／エイズ、マラリアその他疾病の蔓延防止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

# アドボカシー(政策提言)の重要性

## 具体例:

2000年のミレニアム宣言を受けて、2001年、ミレニアム開発目標(MDGs)が設定された。その時点で、1994年に開催された国際人口・開発会議の目標(リプロダクティブ・ヘルスのユニバーサル・アクセス)が抜け落ちた。世界的なキャンペーンを繰り広げた結果、MDGs+5のレビューを受けて、MDG5のターゲット(5b)としてRHのユニバーサル・アクセスが盛り込まれた。

# MDGs時代のアドボカシー

- アドボカシーの収斂(MDGsの傘の下)
- ネットワーキングの拡大と加速、ICT技術の進歩
- ステークホルダー・イニシアティブの多さ  
(国連機関、国際機関、ドナー国、民間助成機関、NGOs、企業、など)
- 調整業務の増加
- 情報量の飛躍的増大とスピード化
- グローバル⇄リージョナル⇄ナショナルレベルにおけるアドボカシー



# NGOsの役割とチャレンジ

## 役割

- コミュニティに生きる人びとの代弁者として
- 政策提言と実行のプロセスにおけるモニタリングとフィードバック

## チャレンジ → **One Voice**

- 人びとの代弁者としてのlegitimacy(正当性)をどう担保するのか
- グローバルなネットワークを活かしつつ、日本政府が政策に反映できる実質的な提言を行うにはどうしたらよいか

# ポスト2015を見据えてのアドボカシー

- グローバルな視野にたち、スピード感を持った連携・連帯・協働が必要→調整コストがかかる(時間、会議参加等)
- 組織としての立ち位置をいつも明確に。同時に俗人性が強くなりがちな活動を組織の知見として財産化する必要がある
- 役割の明確化が必要→どこまでするの？
- そして、¥、\$、€、£。。。。→頭痛の種